

真行草

令和5年

11月発行

第16号

編集・発行 浜松医科大学弓道部 OBOG 係 hamaikyudoobog@gmail.com

毎年1回発行

浜松医科大学弓道部 ホームページアドレス
<http://hamaikyudo.wp.xdomain.jp/>

東海医歯薬男女アベック優勝!!!



2022年12月3日、4日 東海医歯薬学生弓道大会(オンライン)

「盆栽」と「チャット GPT」

弓道部師範 佐藤清昭

知人のドイツ人が日本の「盆栽」を学んでいます。その人からメールが来ました。「今度、日本から盆栽の先生がドイツへ来る。『盆栽マイスター』の資格を取得する講習会である。それにともなって、前もってレポートを提出しなければならない。ついては自分の書いた日本語のレポートに目を通してほしい」という内容です。与えられたテーマは「私にとって盆栽とは？」——「喜んで見させていただく」と返信しました。

さて、送られてきたレポートを見て、驚きました。素晴らしい日本語です。形式的に（つまり文法的、および語彙的に）、「間違い」は見当たらない……。この人はこんなに日本語が堪能だったかな……。そこで次に、原文のドイツ語と日本語を比べてみました。今度は「意味的」な比較です。——随分と「誤訳」があります。段落が変に区切られていたり、何度読み直しても意味が通じないところがある。

レポートを送ってきたドイツ人に「この日本語は誰が書いたの？」と質問すると、「チャット GPT に入力した」という返事でした。「おー、AI の翻訳機能もここまで来たか！」と驚くと同時に、「まだこの程度の実力か！」というのが私の正直な感想です。

しかし AI は今後、私のこんな感想など「あざ笑う」ようにドンドンと進化を続け、外国語に関しては近い将来、通訳する人も翻訳する人も必要なくなることでしょう。これは「確実」と言っていいい。

私は、自動車の運転で**ナビ**を使うようになってから、道を覚えるのが極端に苦手になりました。同じところへ行くのでも、どの道を通り、どこを曲がったのが殆ど記憶に残らない（昔のアナログ方式では、道路地図を広げ、目的地までの道を立体的に頭に入れていたから、「言われるままにハンドルを切る」のとは「肚の座り方」が違います）。**ワープロソフト**の威力もものすごいもので、こちらが意図しない表現を提案してくれるまでになりました。ドイツ語をミスタイプしてもコンピュータが自動的に訂正してくれます。**電話**をするのも、携帯ではボタン一つ押せば相手と繋がりますから、電話番号なんか覚える必要はなくなった。スマホの**カメラ**機能は、「これ以上鮮明に再現する必要があるのか？」と首

をかしげるくらいで、或る景色を見て感動したり、臨場感を味わう以前に（つまり自らに「**内在**」させる以前に）、シャッターを押ただけで満足してしまう。——これらナビ、ワープロ、スマホなどの機能を「記憶の**外在化**」と名づける人たちもいます。

コンピュータの**検索機能**も非常に便利なツールです。何か分からない概念があると、検索すればすぐに情報が得られる。ところが、「成る程」と思い、スイッチを切ると、画面が消え、「書いてあった内容」も一緒に消えてしまう（もっともこれは私の場合だけで、液晶画面とともに育ってきた皆さんの場合は、「画面のまま」記憶に残るのかも知れません）。

さてチャット GPT の翻訳に戻ると……：一度テレビで見たのですが、日本の若い有能なマジシャンがラスベガスへ行き、そこの有名なマジシャンとマジックの腕比べをします。その時に彼らが使っていたのが、「自動翻訳機」です。「すごいマジックだ!」、「どうやったのか?」、「お前は世界でも通用するぞ!」などという言葉で、スマホのような小さな機器にしゃべってから、画面を相手に見せる。すると相手はうなずき、驚き、笑いながら首を振ります。通訳が必要でなくなった一例です。しかしこれは結局、単なる「インフォメーション」の交換であって、心の通じ合う「コミュニケーション」ではありません。

（話が飛躍するようですが）浜松医科大学の初代学長は吉利和（よしとし・やわら）という先生でした。私は時々、吉利先生がおっしゃった印象深い言葉を思い出します：「医学部だからこそ、**一般教育**が大切である。」一般教育（特に哲学、文学、語学などの人文科学）に代表される広い教養を身につけて、人とコミュニケーションをする。そして（外在ではなく、内在する）「豊かな心」で人（患者さん）に（医師として、看護師として、或いは基礎研究者として）接すれば、AI の出番も自ずと「限定される」のではないかと私は考えますが、さて如何でしょうか？

部長挨拶

弓道部部长 三澤清先生(平成6年度卒)

佐藤清昭前部長から部長を引き継いで10年目になりました。今年もコロナ禍で、コンパへの参加はありませんでしたが、阪部前主将ならびに前幹部の皆さんとは少しお話しする機会がありました。来年は大塚新主将と新幹部の方たちとお話しする機会が多くなることを期待しています。

今年は、中部ブロックの主管を浜松で行いました。久しぶりの主管でしたが上級生が下級生と一緒に経験を教えながら立派に大会を行うことが出来ました。大会の主管というのは、それぞれの大学の弓道部が何を大切にしている部活なのかが分かる活動、行事であると思います。先輩から後輩へ、浜松医大の良い伝統を引き継ぐことができ大変良かったと感じました。私自身は、参加が2日目だけとなりました。週末2日とも体が空いていることが少ない仕事なので、今後はサポート役として副部長をどなたかに就任して頂く必要があると感じました。

先日、30年ぶりに山梨大学医学部の弓道場を訪ねる機会がありました。山梨は家族で夏休みに出かけたり、山梨大耳鼻科に呼ばれて講演にいったり頻繁に訪ねてはいましたが、山梨大での仕事が早めに終わったので道場に行ってみました。最近では浜松医大と山梨大は交流が途絶えてしまっていますが、毎年西医体の前に対抗戦を行い、試合の後の飲み会がすごく盛り上がる会でした。道場に行くと、30年前の景色が何枚か頭の中に浮かんできました。道場は昔と同じきれいに掃除され、矢道の芝もきれいに管理されていました。5年生が1人自主練をしていて、昔自分がここに試合で訪れたことなどお話ししました。東医体はどうでしたかと尋ねたら、山梨大は3位であったそうです。的中は59中で半分いかず全体的にどの大学も苦労していたそうです。ぜひまた対抗戦が復活すると良いなと思いました。

最近、学内に弓道部出身の若手医師がすこし増えた印象があります。大学勤務を続けることは、一般的には易しいことではありません。多少なりともボストの競争があります。必ずしも大学勤務が医師としての幸せを満たすものではない部分もありますが、大学は医療、研究、教育の3つを行う機関であり、我々の母校であります。母校の発展に貢献する弓道

部OB・OGが増えることを楽しみにしています。

OB・OG 会長挨拶

OB・OG 会長 丸山哲史先生(平成8年度卒)

皆さん、こんにちは。浜松医科大学弓道部 OB・OG 会長の丸山です。日頃より弓道部の運営にご協力いただき誠にありがとうございます。

早いもので2023年も残すところあと僅かとなりました。本年5月8日にはようやく新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へと移行しました。これにより2020年の第1回緊急事態宣言発令から3年以上の長きに渡った活動制限は収束へと向かい、新たな生活様式での社会が動きだしています。これまで部員の皆さんにおかれましては、試合や遠征の中止、自宅待機など本当に厳しい3年間だったと思います。医療現場では未だ感染症が猛威を振っている現状ではありますが、部員にとっては人生で(ほぼ)最後の学生生活です。我々はOB・OG会として、現役の部員たちが思う存分に活動ができる環境をつくるため、最大限の協力をしていく所存であります。私自身も「真・善・美」の精神を忘れず、微力ではありますが、浜松医科大学弓道部の発展に寄与できるよう努めてまいります。

今後ともOB・OG会の活動にご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

前主将挨拶

第35代主将 阪部千峻(医学科4年)

立冬の候、OB・OGの皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年の9月より1年間主将を務めさせていただきました、医学科4年の阪部千峻です。

1年間主将の職務を全うすることができたのは、部員の協力だけでなく、OB・OGの皆様のご支援のおかげです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今でも新型コロナウイルスの影響は残っておりま

すが、対面での試合が再開され、少しずつ自由に部活動を行うことができるようになっております。

今年度は4年ぶりに西医体が開催されました。初めて経験することばかりで戸惑うことも多々ありましたが、得られたことも多く、今後成長していくための糧となったのではないかと考えております。

この1年を通して、部活をまとめることの難しさを感じると同時に、これまで弓道部を率い、伝統を受け継がれてきた先輩方の偉大さを痛感いたしました。

至らない点ばかりで部員に迷惑をかけることも多くありましたが、多くの方々にご協力いただいたことで、無事に大会等を終えることができました。誠にありがとうございました。私も引退した身ではありますが、部のためにできることは精一杯やろうと考えております。

次期主将は医学科3年の大塚隼士が務めます。このご時世で目まぐるしく状況が変化し続ける中での活動ではありますが、弓道部をより良い部活にしてくれることと思います。

末筆になりましたが、OB・OGの皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、前主将挨拶とさせていただきます。

新主将挨拶

第36代主将 大塚隼士(医学科3年)

向寒の候、OB・OGの皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

9月より浜松医科大学弓道部の第36代主将を務めることとなりました、医学科3年の大塚隼士と申します。OB・OGの皆様が築き上げてこられた伝統ある部の主将を務めさせていただくことを光栄に思うと同時に、大変身が引き締まる思いです。

今年度も医学科11名と看護学科3名の、合わせて14名の新たな仲間を迎え入れ、現役部員が31名、全体で56名という、ますます賑やかな部活となりました。コロナによる規制も本格的に緩和され念願であった対面での西医体も開催し、一段と活気のある中で部員一同、部活動に励んでおります。これもまた、ひとえにOB・OGの皆様のご支援のおかげです。この場をお借りして、ご支援を頂いた皆様に厚く御礼申し

上げます。OB・OGの皆様の良い結果を報告できますよう、日々精進してまいります。

さて、私の考える主将としての役目ですが、コロナ禍にありながらも先輩方が残してくださった伝統をしっかりと引き継ぎ、さらにコロナによって綻んでしまった部分を修復し、今後強い浜松医科大学弓道部を作るために必要な土台を作り上げることと考えています。

コロナによって個人としての活動が増え、部活動のあり方や関わり方も変化してきた中で、部員がそれぞれバラバラの方向を見るのではなく、部員全員が同じ目標に向かって、それぞれのやり方で積極的に自発的に部活動に関わっていける、関わっていきたいと思えるような環境、雰囲気を作っていきたいと思います。

未熟な点も多く、ご迷惑をお掛けすることも多々あるとは存じますが、変わらぬご指導ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健勝とご発展を心からお祈り申し上げ、新主将挨拶とさせていただきます。

前看護科主務挨拶

生越あさぎ(看護学科3年)

落葉の候、OB・OGの皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年9月より1年間看護科主務を務めさせていただきました、看護学科3年の生越あさぎです。

今年8月にはオンライン形式で西看大が開催され、浜松医科大学弓道部看護学科はこの春新たに迎え入れた1年生3名を含めた7名で参加いたしました。全員が団体戦に出場することができ、それぞれにとって貴重な経験となったのではないかと感じております。

私たち部員がこうして弓道部の活動を継続できるのは、OB・OGの皆様の温かいご支援の賜物であると日々実感しております。部員一同、重ねて感謝申し上げます。

さて、この1年は感染症対策のために規制されていた活動も少しずつ再開できるようになり、弓道部としては新たな一歩を踏み出す機会が多くありました。

変化を恐れず、お互いを支えあいながら前に進んでいく大切さを学ぶことができました。これまでの先輩方が築き上げてくださった道を後世へと繋いでいけるよう、今後とも精進してまいります。

新看護科主務は看護学科2年の水越杏実が務めます。彼女は日々努力を積み重ね、何事にも真摯に取り組んでいます。後輩からも慕われており、看護学科のみならずこれからの弓道部全体を支えてくれることと思います。OB・OGの皆様には、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の益々のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、前看護科主務の挨拶とさせていただきます。

新看護科主務挨拶

水越杏実(看護学科2年)

初霜の候、OB・OGの皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

9月より看護科主務を務めさせていただくことになりました、看護学科2年の水越杏実と申します。

今年の8月に西日本看護学生弓道選手権大会がオンライン形式で行われました。1年生が本大会までに全員の前に上がり、看護学科全員が選手として参加することができ、大変嬉しく存じます。来年は対面形式での試合が予定されております。より良い結果を残せるよう、日々精進してまいりますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

ところで、看護科主務を務めることとなり、弓道部に貢献するためには何ができるのか考えるようになりました。私は、弓道部の縦横のつながりが強く、和やかな雰囲気の魅力を感じ入部を決めました。そのような部員同士の関係性を保ち、皆が部活に参加することが楽しいと感じられるように尽力していきたいと考えております。まだまだ未熟な点も多いですが、弓道部のために精一杯努めてまいります。

末筆ながら、皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、新看護科主務の挨拶とさせていただきます。

OB・OGの方々からご寄稿を頂きました！

京都府立医科大学医学部附属病院

川尻英長先生(平成17年度卒)

2006年卒業の川尻英長と申します。

卒業してからもう18年になると思うと月日が経つことの早さを実感いたします。2020年に米国から帰国し、現在は京都府立医科大学心臓血管外科に勤務しながら数多の仕事に追われる毎日です。

私はあまり勉強をしなかった学生で、どちらかというと部活のウェイトが学生生活の80%を占める生活を送っておりました。(お恥ずかしながら学生時代のポリシーはミニマリストアプローチでテストを乗り切り、弓道や遊びに費やす時間をなるべくとるというものでした…。) 綺麗な道場がいつでも使えるということも本当に恵まれていたのだと思います。

学生時代にもっと英語や一般教養をしっかりとっておけばよかったと思う反面、沢山のことを弓道から教わった気がします。日々懸命に努力することの大切さ、その努力を出し切るためにどのように勝負どころで臨むか(精神状態のコントロール、己の弱さとの向き合い方)などは緊迫した場面の多い今の仕事にも活かしているのではないかと感じております。

現在は残念ながら時間が無く、ゴム弓のような筋トレ用のバンドを引きながら、弓道YouTubeを見る日々ですが、また機会をみて真剣に弓を引きたいと思っております。

徐々にコロナも落ち着きつつありますので、佐藤先生、三澤先生はじめ弓道部OB・OG、現役部員の皆さまに近いうちにご挨拶させていただけることを楽しみにしております。

最後になりましたが、皆さまのご健康、ご活躍をお祈りしてこの文を締めさせていただきます。

豊橋市民病院

井上太郎先生(平成 18 年度卒)

2007 年卒の井上太郎です。2004 年度に主将をしていました。もう OB・OGの方を含めて知らない人たちがばかりになっていると思います。卒業後は豊橋市民病院で初期研修、そのまま整形外科に入局し、その後脊椎外科に転科。2013 年から 2017 年まで名古屋の中部労災病院整形外科で勤務、ここでも脊椎外科をメインでやっていました。その後、2021 年 3 月まで名古屋大学医学部整形外科脊椎班に所属していました。2021 年 4 月から古巣の豊橋市民病院脊椎外科に戻り今に至ります。整形外科の中でもかなり早い段階から脊椎外科に特化しており、ちょっと変わった経歴となっています。寄稿のご依頼をいただきましたが、さてどうしたものでしょうか。

学生時代を思い返して、まず思い浮かぶことは「若かった、というか幼かったな」。次に「ひたむきだったな」ですね。部活を強くしたくて、もっと中てたくてほぼ毎日病気のように弓道場にいました。部の方針について、何人かの人ともぶつかりました。全て悪かったとも思いませんがもう少しうまくやれたのかもしれない。また主将以降は最後まで射手として伸び悩んでいました。6 年の最後までちょこちょこ団体にいましたが、最後の方の結果は散々でした。でも、イケイケだった 2-3 年生の頃より悩み続けた 4-6 年の頃の方がずっと思い出として残っています。今でも試合の夢を見ます。決まってもうまく引けず、夢の中でもずっと悩んでいて目覚めてから何とも言えず切なくなります。医者になってからも少なからず当時の経験は糧になっています。少なくとも酒の肴にはなっているようです。

つらつら書きましたが、せっかくなら一生懸命やったほうが後々いい思い出になりますので現役部員の皆さんは頑張ってください。東三河の片隅で応援しています。

磐田市立総合病院

久松優作先生(令和 4 年度卒)

深冷の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。令和 4 年度医学科卒、

磐田市立総合病院研修医 1 年目の久松優作と申します。研修医として勤務し始めて半年ほどが経ちます。徐々に環境に慣れて仕事が楽しくなってきた一方で、自分の未熟さを痛感する日々を過ごしております。そんな中、今回寄稿文を書かせていただけるとご連絡いただき、嬉しく思っております。

さて、在学生の皆様におかれましては西医体・西看大お疲れさまでした。ホームページで試合結果や写真を拝見させていただきました。在学生たちが楽しそうに試合に取り組んでいる姿をみることができました。西医体は、コロナの影響で私が 3 年生の時に最後にしばらく中止となっていました。今年は多くの部員にとって初めての西医体であり、大きな会場・独特の空気感の中で弓を引く良い経験となったのではないのでしょうか。ぜひこれからの練習・試合に活かして欲しいと思います。

これからしばらく開催されていなかった試合も、対面で再開されてくるかと思います。遠征やそれに向けた日々の練習に、なるべく不自由なく取り組めるよう、わずかではありますが援助させていただきます。この場をお借りして恐縮ではございますが、OB・OGの皆様からもより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、弓道部の益々の発展、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、私の寄稿とさせていただきます。

浜松医科大学医学部附属病院

小峯望実様(令和 4 年度卒)

立冬の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。令和 4 年度看護学科卒、浜松医科大学医学部附属病院看護師 1 年目の小峯望実と申します。実際に看護師として働き始めて 6 ヶ月経ちますが、在学時の実習とは異なり絶えず動き回り、なんとか業務を終わらせる、そんな毎日です。それでも院内で他の OB・OGの先輩方を見かけると、私も頑張らなきゃ、と密かに元気を頂いています。この場をお借りして御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に引き下げられたことから、院内での感染患者の対応方法やスタッフの行動制限が緩和されてきています。先

日、同科の先生や看護師の先輩方と一緒に飲む機会があり、仕事についてはもちろん、プライベート等勤務時だけでは聞くことができない様々なお話をすることができました。互いを知ることによってその後から病棟でのコミュニケーションもとりやすくなり、自分もやっと病棟スタッフの一員になれたような実感がありました。部活動でも現地に行つての対外試合が一部再開されてきていると聞きました。他大学の部員と接する機会もこれから少しずつ増えていくことと思います。学内外ともに人との関わりを大切に、弓道も学業も互いに切磋琢磨して充実した学生生活を送れるよう陰ながら応援しています。

末筆ではございますが、OB・OGの皆様のご健勝とご多幸、また浜松医科大学弓道部の更なる発展を心よりお祈り申し上げ、私の寄稿とさせていただきます。

今年度もOB・OGの方々からご寄稿を賜りました。お忙しい中、誠にありがとうございました。今年度に引き続き、来年度の会報誌にもぜひご寄稿のご協力をお願い申し上げます。

近況報告 (一年間の弓道部の様子と、部員からの近況報告を掲載します)

OB・OGの皆様、平素より多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。今年はおかげさまで対面での大会も増え、多くの後輩たちが活躍いたしました。道場にも以前のような活気が戻り、皆熱心に稽古に励んでおります。私も最終学年として、先輩方が残して下さった素晴らしい伝統を引き継げるよう、過渡期に向き合い修練を積み後輩たちを全力でサポートしていく所存です。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

栗田幸太郎(医学科6年)



OB・OGの皆様、平素より多大なご支援を賜りまして誠にありがとうございます。弓道部に入部して半年が経ちました。OB・OGの皆様からのご支援と道場にいらっしゃる先輩方の丁寧なご指導のおかげで、中学生の頃から続けてきた弓道の楽しさを再発見し、充実した日々を送ることができています。皆様からのご支援やご指導に感謝をしながら、これからも精進してまいりたいと思います。

松本隼弥(医学科1年)



↑11月 シャちほこ杯



↑12月 グラスカップ

OB・OGの皆様、平素より多大なご支援を賜り誠にありがとうございます。引退をした今、弓道部で先輩、後輩、同級生と過ごした時間や経験が貴重なものであったと実感しております。これからも楽しみながら弓道に励んでいきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

川又柚葉(看護学科3年)



↑12月 冬のうなぎ杯

OB・OGの皆様には平素より多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

引退して早1年が経ちますが、熱心に稽古に励む後輩たちを見て、頼もしさや少し寂しさのようなものを感じ、温かく迎えてくれる部員たちに、弓道部という居場所の大きさを痛感させられる日々です。このような温かい場を築き、継承してくださった皆様に心より感謝申し上げます。私も皆様方から伝えていただいた知恵や伝統を少しでも多く後輩たちに受け継いでいけるよう、精進してまいります。

大河原栞(医学科5年)

OB・OGの皆様、平素よりご支援賜りまして、誠にありがとうございます。

今年の5月に新型コロナウイルス感染症の分類が5類に引き下げられたこともあり、時代もアフターコロナへと向かっております。その中で弓道部も対外試合が続々と増えておりますが、こうして試合が出来るのも、OB・OGの皆様の温かいご支援があってこそだと感じています。

今後とも、ご支援よろしくお願いいたします。

加藤脩志(医学科4年)



↑1月 三十三間堂



↑2月 春季県下

OB・OGの皆様、平素より多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。弓道部に入部して早くも1年半が経ちました。新たに後輩ができ、先輩として少しでも成長しなければならないと痛感しております。これまでOB・OGの先輩方が築き上げてくださった弓道部の素晴らしい伝統を受け継いでいけるよう、日々精進してまいります。

村松真衣(医学科2年)

OB・OGの皆様、平素より多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。今年度は、対外試合の増加、遠征、コンパの復活など、徐々にコロナ前の部活の形式に戻ってきました。状況の変化に戸惑うことも多々ありましたが、OB・OGの皆様が受け継いでくださったもののおかげで無事乗り切ることができました。皆様にいただいたものを後輩たちに受け継いでいけるように、これからも弓道部を盛り上げてまいります。

河野竜聖(医学科4年)



↑3月 メモリーカップ



↑7月 夏のうなぎ杯

OB・OGの皆様、平素より多大なご支援を賜り誠にありがとうございます。

弓道部に入部して約半年が経ち、初心者の私もOB・OGの皆様のご支援や道場の先輩方の丁寧なご指導のおかげで弓を引けるようになりました。これからも皆様への感謝の気持ちを忘れず、弓道に励んでまいります。

國本千愛(看護学科1年)

OB・OGの皆様におかれましては、平素より多大なご支援を賜り誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症による行動制限が解除され、弓道部としての活動も以前の賑やかさを取り戻しつつあります。弓道を初めて1年半とまだまだ未熟ではありますが、皆様が築き上げてこられた浜松医科大学弓道部の伝統を絶やさぬよう、日々精進してまいります。

今年度末には、数年ぶりとなる対面でのOBOG総会の開催が予定されております。皆様にお会いできますことを心待ちにしております。

奥田翔一(医学科2年)



↑8月 西看大

春には、医学科6人、看護学科2人の先輩方がご卒業され、新たに医学科11人、看護学科3人の新入生を迎えました。

OB・OGの皆様、日頃より多大なご支援をいただき誠にありがとうございます。弓道部に入部してから半年、たくさんの先輩と同級生のおかげで充実した日々を過ごすことができおり、弓道部の一員として活動できることをとても嬉しく思っております。これからも弓道の稽古に励み、楽しむことを忘れずに努力を重ねてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大前実優(医学科1年)



↑8月 西医体



↑9月 主将杯

OB・OGの皆様、平素より多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。弓道部に入部してからの2年半、皆様からの温かいご支援によりコロナ禍でも充実した活動を行うことができました。現役生最高学年としての自覚を持ち、先輩方から受け継いだものを後輩へと伝えられるよう日々精進してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

黒石紀夏(医学科3年)

OB・OGの皆様、平素より多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。コロナの影響でオンラインでの対外試合が続いておりましたが、昨年度の東国体から再び対面での対外試合を行えるようになりました。コロナ以前の賑やかな対外試合の光景が戻ってきたことを心から喜ばしく思います。OB・OGの皆様の良いご報告ができますよう、現役生を精一杯サポートしてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

小俣尚輝(医学科6年)

PDF ファイルについて

本年度もカラーページが多いため、より見やすいものを見ていただけるように、ホームページからダウンロードをできるようにいたしました。

是非ご覧ください。

<http://hamaikyudo.wp.xdomain.jp/>から
[アイテム] → [会報誌] にてご覧になれます。

試合結果 (2022.10~2023.9)

しゃちほこ杯 2022. 11. 19

【団体戦】

男子団体 準優勝
女子団体 A 第3位
女子団体 B 準優勝

【女子個人戦】

優勝 村松真衣 (医学科1年)
第3位 一ノ宮未来 (医学科4年)



東海医歯薬学生弓道大会 2022. 12. 3~4

【団体戦】

男子団体 優勝
女子団体 A 第7位
女子団体 B 優勝

【男子個人戦】

第5位 大塚隼士 (医学科2年)
最多の中賞 加藤脩志 (医学科3年)

【女子個人戦】

優勝 江川由愛 (医学科3年)
第6位 生越あさぎ (看護学科2年)



静岡県下学生弓道選手権春季大会 2023. 2. 25

【団体戦】

男子団体 A 第3位
女子団体 B 第3位

【女子個人戦】

優勝 一ノ宮未来 (医学科4年)
第5位 村松真衣 (医学科1年)



第58回中部ブロック医科学生弓道大会 2023. 6. 3~4

【団体戦】

女子団体 準優勝

【男子個人戦】

第4位 阪部千峻 (医学科4年)
第5位 小俣尚輝 (医学科6年)

【女子個人戦】

第5位 齋藤遥 (医学科3年)



第 72 回東海地区国立大学体育大会 2023. 6. 17

【団体戦】

男子団体 第 4 位

女子団体 優勝



東海ブロック練習試合 2023. 7. 22

【団体戦】

男子団体 準優勝

女子団体 優勝

【女子個人戦】

準優勝 一ノ宮未来 (医学科 5 年)

第 3 位 川又柚葉 (看護学科 3 年)



西日本看護学生弓道選手権大会 2023. 8. 10～12

【団体戦】

団体 A (60 射 22 中)

団体 B (60 射 1 中)



西日本医科学生総合体育大会 2023. 8. 22～24

【団体戦】

男子団体 (120 射 40 中)

女子団体 (60 射 22 中)



学年はすべて当時のものを記載しております。

昇段審査結果 (2022. 10～2023. 10)

2022 年

10 月 第 9 回 地方審査会(浜松市・浜松市弓道場)

初段 池谷花蓮 (医学科 1 年)
伊藤優貴 (医学科 1 年)
遠藤青嶺 (医学科 1 年)
奥田翔一 (医学科 1 年)
金子翼 (医学科 1 年)
杉森徳心 (医学科 1 年)
水越杏実 (看護学科 1 年)
月森康夫 (医学科 2 年)

式段 大塚隼士 (医学科 2 年)
小嶋優規乃 (医学科 2 年)
川又柚葉 (看護学科 2 年)
黒石紀夏 (医学科 2 年)
齋藤遥 (医学科 2 年)

参段 岡田望鶴 (医学科 2 年)

11 月 第 10 回 地方審査会(藤枝市・静岡県武道館弓道場)

式段 大西舞奈 (医学科 2 年)

参段 菱田昂太郎 (医学科 5 年)

2023 年

2 月 第 12 回 地方審査会(藤枝市・静岡県武道館弓道場)

参段 生越あさぎ (看護学科 2 年)

四段 村松真衣 (医学科 1 年)

3 月 第 14 回 地方審査会(浜松市・浜松市佐久間瞑想館弓道場)

四段 加藤脩志 (医学科 3 年)

4 月 第 2 回 地方審査会(浜松市・浜松市弓道場)

式段 遠藤青嶺 (医学科 2 年)
奥田翔一 (医学科 2 年)
金子翼 (医学科 2 年)
月森康夫 (医学科 3 年)

参段 河野竜聖 (医学科 4 年)

四段 杜博文 (医学科 6 年)

10 月 第 6 回 地方審査会(浜松市・浜松市弓道場)

1 級 相場美羽 (医学科 1 年)
及川唯衣 (看護学科 1 年)
國本千愛 (看護学科 1 年)
鈴木佑月花 (医学科 1 年)
鈴木志音 (医学科 1 年)
山田あかり (看護学科 1 年)

初段 大前実優 (医学科 1 年)
松井良介 (医学科 1 年)
吉岡称 (医学科 1 年)
吉田悠人 (医学科 1 年)

式段 伊藤優貴 (医学科 1 年)
大塚南海 (医学科 1 年)
松本隼弥 (医学科 1 年)

参段 遠藤青嶺 (医学科 2 年)
金子翼 (医学科 2 年)



↑ 第 12 回地方審査会の様子

学年はすべて当時のものを記載しております。

1 年を振り返って

はじめに

今年の5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症になったことに伴い、行動制限が緩和されました。現在は、私たちは新型コロナウイルス感染症と共存するウィズコロナの時代を迎えています。この状況下で、医療の最前線で患者さんの治療に尽力なさる医療従事者の皆様に、心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

中部ブロック主管(2023. 6. 3～4)

昨年7月下旬、新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴い、西医体の開催中止が決定されました。それまで、多くの準備を行ってきた私たち部員は、喪失感にさいなまれていました。しかし、コロナに屈せず、オンラインにて西医体の代替大会を主管し、大きな成功を収めることができました。この成功体験を活かし、次に控える中部ブロックへの主管準備に向けて意気込みを新たにしました。

部活全体での準備は2月に始まり、係内の打ち合わせやマニュアル作成、浜松市弓道場や新城総合公園弓道場といった外部道場を借りてのリハーサル等を行いました。開催時期が6月と新年度が始まってすぐということもあり、1年生に主管校として恥じない振る舞いができるよう、主管練習に励み、本番に臨みました。

しかし、大会前日から当日朝にかけて、台風2号による大規模な線状降水帯が発生し、浜松市では24時間雨量が500ミリ近くと記録的な大雨となりました。この大雨の影響で、新幹線は当日の昼頃まで運転を見合わせ、多くの出場校が到着できず、大幅な開会時間の遅延を余儀なくされました。幸いなことに、午後には全出場校が集まることができました。昨年の主管のおかげもあり、大会はスムーズに進行し、初日の遅れを取り戻し、無事2日間の日程を終えることができました。昨年の主管準備を行ってきた上級生と、新入生の頑張りにより素晴らしい大会になったと感じております。



↑ 中部ブロックの様子

4年ぶりの西医体開催(2023. 8. 22～24)

今年こそ対面での開催が期待されていた西医体ですが、5月末、主管校が大学カリキュラム上参加できないことが判明し、開催が危ぶまれることとなりました。開催までの時間も残されていない中、オンラインでの開催も検討されていました。そんな中、有志を募り、高知大学が主管を、その他十数校の大学も主管の補助にまわり、多くの大学の協力でエディオンアリーナ大阪にて開催していただけることになりました。

実に4年ぶりの開催であり、普段はお会いする機会がない方々の射を見ることで、大変勉強になりました。結果として賞を収めることはできませんでしたが、弓道に対する思いはより一層強くなりました。

来年は川崎医科大学主管のもと岡山県で開催される予定であり、部員一同良い結果が残せるよう、精進してまいります。



↑ 西医体の様子

おわりに

主管および西医体に際して、OB・OGの皆様の温かいご支援をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第 6 回 OB・OG 総会のお知らせ

第 5 回 OB・OG 総会では、多くの OB・OG の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

第 6 回 OB・OG 総会は、2024 年 2 月 23 日に開催いたします。前回同様、多くの OB・OG の皆様のご参加を心よりお待ちしております。詳細は決まり次第ご連絡いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

会費・決算報告について

OB・OG の皆様に OB・OG 会費納入のご協力をお願い申し上げます。詳細は、同封の別紙をご参照ください。

また、前年度の決算報告について記載した報告書も同封いたしました。多くのご支援、深く感謝いたします。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 編集後記

初冬の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

今年は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限も緩和され、対外試合も対面形式での開催が多くなりました。オンラインや対面と大会ごとに開催形式が異なる中、しやちほこ杯(11月・対面)や東海医歯薬(12月・オンライン)の個人戦優勝をはじめ、東海医歯薬の団体戦アベック優勝、女子団体による7大会9年ぶりの東国体(6月・対面)優勝など、個人戦、団体戦ともに好成績を収めることができました。さらに、西医体(8月・対面)は4年ぶりの開催となり、賞を収めることはできませんでしたが、大規模な会場での試合は大変貴重な経験となりました。こうした経験をさせていただけるのも、各個人の努力もさることながら、OB・OGの皆様の温かいご支援のおかげであると深く感じております。引き続き感染対策に留意しつつ、OB・OGの皆様に良いご報告ができるよう部員一同精進してまいります。

また、今年に入り、コンパ、OB・OG総会などの多くの会が再開されることとなりました。コロナ禍で中断していた浜松医科大学弓道部の伝統を途絶えさせず、次の世代に繋げられるよう一層努力してまいります。

最後に、第6回OB・OG総会は、新型コロナウイルス感染症の影響で長らく対面での開催が延期されておりましたが、来年2月に、6年ぶりに対面で開催する運びとなりました。皆様のご参加を心よりお待ちしております。謹んでお

願い申し上げます。

OB・OG 係 月森康夫 小嶋優規乃 杉森徳心 相場美羽